

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「自分らしい時を過ごす場所」を事務所の目立つ場所に掲げ職員が出勤の都度見られるようにすることで、各職員が常に意識をもって業務に臨めるようにしている。	「自分らしい時を過ごす場所」の理念をふまえ、職員の都合でケアしないように指導している。利用者、家族へは契約の時に説明している。理念にそぐわない言動が見られた時にはすぐに人の居ない所で注意をしたりミーティング時に話し合い再認識を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の業者から食材を仕入れたり、地元自治会と共同の避難訓練やどんど焼きを事業所敷地内で行うよう提案するなど交流する機会がとれるよう工夫している。	ホーム敷地内に地域の防火水槽を設置(11月中に完成)したり、地区のドンド焼きの場所を提供している。地区のドンド焼きには、毎年豚汁が振る舞われ、ホームキッチンを開放し、利用者との交流の場になるように計画している。町は広いが代表者の多くの友人や知人の協力等を得て、地域と利用者の繋がりをあらゆる機会に作りだしている。多くのボランティアの来訪や野菜・果物の差し入れなどが近隣住民からある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自社のホームページにより相談を受け付ける告知をし地域の認知症の方々やご家族の相談窓口となっており何件かの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に活動状況や施設の状況等を報告し、構成員のかたから意見をいただきサービス向上に活かしている。	利用者、家族、区長、民生委員、自治会長、社協職員、町職員で構成され2ヶ月に1回開催している。利用者の現況報告や活動報告をし、当日の議題を別に決め話し合いをしている。活発に意見交換が行われ運営に活かされており、防火水槽設置の件、ドンド焼きの件など運営推進会議から出た事案が実行に移されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治体の介護予防事業の委託を受けている関係もあり、町担当者と連絡を密にとっている。	介護予防事業「お元気クラブ」を町から委託されている。町担当職員には相談や要望を気軽に伝えることが出来、良好な関係作りが出来ている。介護保険の更新申請の代行や認定調査の立会いをし、多くの家族より依頼を受けそれぞれの調査員に利用者の情報を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておらず本人の意思で出入りできる。但し防犯と安全上の面から夜間と土日のみやむを得ず行っている。それ以外の身体拘束を行わないケアに関しては職員に研修を行い周知徹底している。	玄関を施錠することはなく、身体的拘束の事例もない。介護度3から1へと軽くなった利用者が自宅を心配し帰宅願望が強くなったことがあり勤めている時は役職に就いていたことから当時の役職にふさわしい形でお呼びし、利用者の意見の取りまとめなどお願いしたことや落ち着きを取り戻したという。一人ひとりの経歴や性格などを十分理解し対応することで利用者の役割や居場所を確保している。	

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	週1回の職員間の話し合いの際に時間を設け、随時学ぶ機会をもち日常的に身体の状態を観察するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	週1回の職員間の話し合いの際に時間を設け、随時学ぶ機会をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書をご覧になっていただきつつ、疑問点等をお伺いしそれに応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付にご家族からの意見や提案を記入できるノートを設置している。また、苦情解決担当者や面会等の機会の際にご要望等伺っている。	町の広い地域からの利用であり家族の来訪も毎週の方や月に1回の方など様々である。家族が訪問した時は職員も対応しセンター長がいる時は必ず話を伺っている。日帰りの小旅行の参加を家族に呼びかけ、急ぎの用があるときには電話で家族に連絡をとっている。行事やスナップ写真、連絡等が書かれた「絆便り」が毎月家族に郵送されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案などを記入するノートを作製し、活用したり定期的に職員同士でミーティングを行う機会を設け、職員からの意見や提案を常に聞けるようにしている。	毎週ミーティングがあり、業務連絡や研修、職員より出されたテーマなどについて話し合いをしている。内部研修は代表者が企画し、資料作成や講師も兼ねている。外部研修については各職員が其々のテーマで参加し、資質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メンタル面を含めた職員の状況を定期的に監督し状況に応じて対処している。勤務状況の優れている職員には手当を支給するために職能給制度を導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者、職員それぞれのスキルアップの為に社外研修に参加したり、随時自社研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連団体(長野県宅老所・グループホーム連絡会等)主催の研修会や交流会に積極的に参加している。		

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人と面会しお話を伺い、そこから得られた情報を整理し、基本情報に盛り込みそれを職員間で共有し、ケアに反映できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族と面会しお話を伺い、そこから得られた情報を整理し、基本情報に盛り込みそれを職員間で共有し、ケアに反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に得た情報をもとにアセスメントしケアプランを策定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の正面から近づき目線の高さを合わせ、体に触れながら声掛けをし、全てにおいて本人の意思を尊重して行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日頃の様子を掲載した『絆だより』を発行し郵送したり、あえて衛生用品を届けていただき、面会の機会を多くもてるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでに過ごされてきた地区のお祭り等の行事に参加することができるよう企画している。	訪問調査日に友人や家族の来訪があった。友人と見られる方は利用者と同じく高齢であった。町から委託されている「お元気クラブ」に通われてる方が利用者の知り合いで話しをする機会もある。地区のお祭りで子供みこしが廃止されたので来年からは利用者一人ひとりの地区のお祭りに参加できるように計画を練っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングを快適に過ごせる環境にし、ほとんどの入居者様が1日の大半をリビングで過ごされるように工夫している。強制ではないが、気の合う人同士を同じテーブルになるよう誘導している。		

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も定期的に連絡をしその後の様子等を伺うようにし、必要に応じて援助できるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的な一日のスケジュールはあるが全てにおいて本人の意思に従っている。入浴は毎日できるようにしている。	利用者の殆どが言葉や表情、仕草で自分の意思を伝えることができる。利用者の「話を聞いてほしい」、「自分を理解してほしい」という気持ちを大切に支援している。なにかしていないと落ち着かない利用者には障害者施設にお願いして受けた箱の組み立ての仕事を、土をいじることが好きな方には野菜や花を育てる作業をしていただきストレスが緩和されたという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や趣味、呼び名及び生活環境や入居までの経過等を事前に本人や家族から聞き、日頃のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしのなかで何ができるか、心身の状態はどうであるかを、常に観察し見極め、一人一人に合った支援や環境の整備をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関や前ケアマネ等からの情報や意見を基に職員と相談しできる限り自分らしく暮らせるようなケアプランにしている。	利用者や家族から要望を聞き、計画作成者が作成しミーティングで職員の意見を聞いている。本人には「こういう風に過されてはどうですか」と言葉で伝え家族には来訪時に説明している。毎日「バイタルチェック表」や「サービス提供記録」を細かく記入し、資料を参考にしながら定期的な見直しをしている。今後職員のレベルアップを図りケア会議を行っていきたいという意向をもっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたことを記録に残し、特に重要なものは日誌に別に記入し、申送りで情報を共有している。また、特に重要な事項に関しては週1回行っているミーティングの際に話し合いよりよいケアが実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や病院等への送迎や付き添いは原則的には家族にお願いしているが本人や家族の状況や要望に応じて職員が行っている。		

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常は花や野菜の栽培、自然に恵まれた環境の中での散歩、季節ごとに花見や紅葉狩りなどの計画を立て「旅のしおり」を予め配ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は全て本人や家族が希望する医療機関で行っている。職員が付き添い受診し、日頃の様子等を医師に伝えるようにしている。	利用者のかかりつけ医の継続をお願いしている。通院は基本的に家族をお願いしているが、利用者の状態によっては職員が付き添っている。元気な利用者の定期通院は医療機関で知人にあたりする機会ともなっている。インフルエンザが流行する前の医師の往診時に利用者、職員全員が予防接種を受けインフルエンザの感染への対策も万全にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当町には本題の環境が整っておらず、隣接市町の訪問看護ステーションと連携する準備を進めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の生活習慣やケア上の情報を担当看護師に情報伝達し、入院中はこまめに面会し状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは、契約時に事業所のできることを説明し、本人・家族の意向を確認し対応できるようにしている。	利用者や家族の希望があれば最期を迎えるまで支援する方針である。「グループホーム絆における終末期(看取り)に関する指針」を作成し、契約時に家族に説明している。昨年度の外部評価の結果を踏まえ今年度の目標として挙げているが、スタッフの入れ替わりがあり現在職員教育中のため重度化や終末期の研修については延び延びになっている。	利用者や家族の意向を尊重し、ホームの方針を実現されていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えAEDを設置している。また、応急手当普及員の資格を持った職員が定期的に全職員に対し救急救命法等の講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当グループホームの避難マニュアルを作成し、それに基づき定期的に事業所内で避難訓練を行っている。また、被災時には地域の認知症のかたを中心に当ホームで受け入れるようにしている。自治会との合同の防災訓練を計画している。	消防署へ計画書を提出し年に4回昼夜想定訓練を行っている。利用者と職員が参加し、利用者の誘導や搬送を行い、課題を次回に活かすために反省会で検討している。自動火災報知機、スプリンクラー等の定期点検、自主訓練(隔月)が行われている。設置された「防火水槽」を利用した自治会合同訓練を企画し提案していく意向がある。大型福祉車両があり、災害時には避難場所として活用できるようにしている。	

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを取り入れひとりひとりに寄り添ったケアを実践するようにしている。	利用者の呼びかけは利用者一人ひとりにあった呼び名で対応している。家族の同意を得て苗字や名前前に「ちゃん」づけをしたり、「先生」と以前の職名で呼んだりしているがいずれも敬意と親しみをもって接している。家族と相談して家で使われていたニックネームで話しかけることで反応を得られる場合もある。勉強会で接遇を学ぶ他に関連の本やDVDを職員に貸し出しスキルアップにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、排泄等の日常生活の場面における言葉掛けの際、常に本人に選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は希望する時間に提供し、居室でもとれるようにしている。入浴は毎日可能とし、夜間でも入れるようにしている。また、職員には職員の都合でケアしないよう指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行えない人に対しては毎朝職員が本人の意見を聞き支援している。また散髪は美容師が月1回来所し、本人の希望する髪型になるようにカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたいものを聞くようにしている。台拭きや食事の準備、後片付け等でひとりひとりできることを一緒に行っている。刻み食は原型に近い形で刻んで出している。	調理担当職員がおり、冷蔵庫にある食材で利用者の希望などを聞きながら献立を決めている。女性利用者がキッチンに入り、職員と一緒に楽しみながら作っている。誕生会にはケーキ屋の美味しいケーキでお祝いをしている。町からの委託事業の「お元気クラブ」の日にはホームも一緒に外部のお弁当を取っている。目先が変わり楽しみの一つともなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立にしている。食べる量や水分量、食事形態はひとりひとりにあわせ、本人の状態に応じて変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ひとりひとりが口腔ケアを行うよう支援している。定期的に口腔内を観察し、しっかり行っているか確認している。		

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録からひとりひとりの排泄パターンを割り出し、職員がそれを把握し適切な誘導を行うようにしている。	トイレでの排泄を基本とし自立に向けた支援を行っている。毎日排泄記録表がつけられ、記録を参考にしながら声掛けをしている。リハビリパンツや布パンツ使用者がいる。夜間の声掛けを希望する方には声掛けし見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防についての研修を職員に対し行っている。飲食物については野菜や水分を多めに摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分に応じて入浴していただいている。浴室の入り口に『ゆ』のマークの暖簾を下げ、温泉の雰囲気を出している。また、浴室の外を庭園風にし窓ガラスを透明にすることにより入浴を、楽しんでいただけるようにしている。	毎日バイタルチェックを行い利用者に希望を聞き入浴している。毎日希望する方、2日に1回の方など希望に沿って対応しているが、間隔が空いた時には職員が誘い入浴している。明るい浴室で窓の外に代表者手作りの庭園を眺めることができる。入浴時間も様々で、あまり長いと「のぼせるからそろそろ…」と声をかけている。日帰り温泉を利用することもあり職員は緊張するが、利用者の満足した顔を見ると良かったと思うという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休息することを強制せず、必要であれば休息する場所などをかえている。また、消灯時間を設けず、好きな時間に好きな場所で休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の基本情報と共に服薬内容と既往歴もわかるファイルを作成し職員が把握できるようにしている。状態に変化があれば、必要に応じ医師に相談し、薬の内容を見直してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に誕生日会等のイベントの準備をしたり、家庭菜園で野菜を栽培し収穫する際の支援をしている。定期的にミニ旅行をし季節を感じていただいている。事前に渡す「旅のしおり」は日々の楽しみにもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に本人の希望を伺い事業所の周りを散歩している。月に一度花見や紅葉狩り等に出かけ季節を感じていただけようようにしている。	雪が降る時期を除き日常的にホーム周辺を散歩しながら、目や体で季節を感じている。大型の福祉車両があり毎月1回外出行事がある。大型福祉車両利用のため利用者と職員と一緒に行動が出来、その都度、色々な話や様子が伺え、楽しく安心であるという。10月には紅葉狩りで戸隠まで行き、帰りは長野市内の日帰り温泉で美味しい食事と休憩をし充実した1日を過ごすことができた。	

グループホーム絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	折込チラシを見ていただいて、希望があれば職員が付き添い買い物にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関ホールに公衆電話を設置し、希望時電話できるようにしている。手紙のやりとりは常に行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全て東側で朝日が入るようになっていて、常に季節ごとの生花や七夕、クリスマス、正月の飾りをしている。複数箇所に温度計を設置、浴室の外は庭園風にするなど、快適な環境となるよう工夫している。	ペンションを改装したホームであり以前の1階はスキヤーカーが使用した乾燥室で、洗濯機が置かれ洗濯ものが乾きにくい時は物干し場として利用している。リビングの3ヶ所にはテーブル型の炬燵が置かれ、人のぬくもりを感じる室内であった。2階の機能訓練室には「高齢者用のカラオケ」があり娯楽と機能訓練が一緒に行え楽しみの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でも一人になれるよう、一人用テーブルやいすを設置したり気の合う利用者同士が同じテーブルになるよう複数のテーブルを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から本人の家具や食器など使い慣れたものやぬいぐるみや置物や写真等本人の好むものをもってきていただくようにしている。	入口には名札が掛けられ居室の確認ができる。各居室には収納用のクローゼットがあり、家より持ち込まれた整理ダンスで室内は綺麗に整頓されていた。居室にはミニキッチンが付いているがほとんどの利用者は共同の洗面台で整容している。明るい居室の窓からは慣れ親しんだ風景を見ることができる。夏は冷房の必要がなく冬はガス温風ヒーターで過している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立歩行ができるよう手すりが途切れる場所には可倒式の手すりを設置し、頭を打つ恐れがある箇所にはクッション材を付けたリ、トイレやリビング、居室の場所がわかるような工夫をしている。		